# 分からないところや困っている時にすぐ教えてくれるから、うれしい

小学4年生男子

子どもの目線に合わせて、どこが分からないかを話し合う学生SAT（撮影／石狩小学校）

## 授業をのぞいてみると…

ここは石狩小学校4年生の教室。昨日の算数のおさらいをした後、プリントの問題を解く子どもたちの間を担任の安部由里香先生が見て回ります。SATの木本理可さん(北海道教育大学札幌校大学院生)はまず、遅刻してきた男の子が遅れを取り戻せるようサポート。教室では、次々と問題を解く子もいれば、頭を抱えてしまう子も。SATはみんなの様子をじっと観察しながら、手の止まっている子を見つけては目線を合わせてやさしく声を掛け、考え方をアドバイス。すると、それまで難しい顔をして考え込んでいた子が鉛筆を走らせました。分かった瞬間、ぱっと顔を輝かせ、ニッコリ笑ったのが印象的でした。

算数や数学は、一度つまずくと次に進めない、学力格差の生まれやすい教科といわれています。そこで石狩市では3年前から、希望する小・中学校にSATを導入。現在では、算数や数学以外にも、家庭科・音楽・スキー・水泳などの教科に対する希望が出され、平成16年度からはすべての小・中学校でSATによる指導が実施されています。

子どもたちのSATに対する評価も高く、樽川中学校3年生の女子からは「自分が小学校の時からこの制度があれば良かったのに」という声や、「英語など、ほかの教科も教えてほしい」という要望もありました。

### SAT＝「スクール・アシスタント・ティーチャー」とは?

子どもの側に立って、子どもが主役となる授業を進めるため、地域の住民や大学生が、担当教師の方針・指示に基づき、教科の指導補助として子どもの学習をサポートする、全国でも珍しい制度。石狩市は平成15年度から本格的に導入しました。

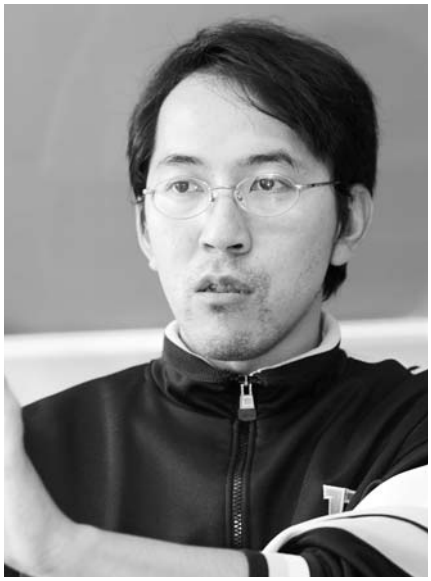
SATとして指導するのは、指導内容に適した専門的な知識・指導能力を持っている市民や意欲のある学生。SAT導入校の校長の推薦に基づき、教育長が承認した方で、教員免許の有無にかかわりません。

幅広い人材活用による、学校と地域の連携強化が期待されます。

「SATは子どものいつもと違う面も発見してくれます」と、石狩小の安部由里香教諭

石狩小の杉浦和貴教諭は「子どもたちが意欲的になった」

「学力の底上げになっている」と樽川中の白取路章教諭



# 子どもたちの「やってみよう」という意欲がより強く感じられるようになりました

## 小・中学校の担当教諭

### 先生方の声とSAT効果

実際に授業を受け持つ先生方はどう感じているのでしょうか。

石狩小学校の杉浦和貴教諭は、「子どもたちは年の近い先生がいるだけでうれしくて、学習意欲がわくんですね。授業のスピードに付いて来れたり、問題を解く速さがアップするなど、いい変化が出ています」と熱く語ってくれました。

前出の安部教諭は、「SATは子どもたちの違う面を見つけてくれますし、私たちの見えないところをフォローしてくれます」と、学習面以外の大きなメリットを指摘。

樽川中学校で数学を担当する白取路章教諭は「学力向上を考えると数学の専門家を入れた方がいいという意見もあるかもしれないけれど、専門家ではない大学生が言葉を換えて説明するからこそ、分からない子にダイレクトに伝わる」と、その効果を説きます。

実際に中学生からは「年が近いので話しやすいし、聞きやすい」、「質問する量が増えたので、数学が分かるようになった」というれしい声も聞かれました。

SATの導入には、これまでの学校教育では十分にできなかった、子どもたちの能力や適性・習熟度の違いなどに応じた細やかな指導を求める声が保護者や先生たちから高まってきたことが背景にあります。

SATの活動は、個々の子どもたちのつまずきを把握し、考え方のヒントを与えること。プリントを使用した学習では、担当教師と分担して採点・指導しますが、これによって習熟度に合わせた学習や少人数を対象にした指導が可能になり、学習内容の定着化が図られています。

### 石狩市教育プラン 後期基本計画の3つの柱

まちぐるみで学ぶ心を育て、人を育てていく「地域教育」の推進を目指す「石狩市教育プラン」。

前期基本計画の実績を基に、学校教育・社会教育・教育行政全体をとらえた地域教育の推進を柱にした5カ年の後期基本計画が今年4月からスタートしました。

学校教育に関しては、子どもたちの「生きる力」をはぐくむために、子どもと真剣に向き合い、地域とともに学校課題を真正面からとらえることができる、魅力ある学校づくりを支援します。主な取り組みに「地域SAT(人材)の拡充」をはじめ、「食育の推進」、「異校種間交流研修」、「学校の適正な規模・配置の検討・推進」などがあります。